



もてなしの心で語る わが街

えな自慢

えな自慢
51

ペトログラフ・イワクラ

超古代からのメッセージ



▲笠置山にあるピラミッド状のペトログラフ

ひとくちメモ

長島町鍋山の中腹に立つメンヒルは原始的な呪術、儀礼、あるいは信仰と深い関係をもった遺構とも考えられる巨石記念物。寄り添うように立つ、2本の立石の数字離れた隙間からは、夏至に日の出が見えることが確認された。

ペトログラフとは、先史時代から岩石に刻まれた文字や記号、文様、絵画のことを言い、特に笠置山周辺で見られる。学術的研究と古代のロマンを求め、地元住民をはじめ、各種団体が古代からのメッセージを研究中。

イワクラとは、現代の神社やお寺などの本殿に相当する超古代の山岳祭祀遺跡のことを言う。今から約4千年以上も昔、三角岩や巨大石など、不思議な形をした大小さまざまな岩をご神体の岩として祭ったもので、「磐座」と書き表す。山岡町には「野田」、「別荘」など数々の巨石群がある。



▲夏至の日に、隙間から日の出が見えるという長島町鍋山のメンヒル

えな自慢
52

大船神社と松並木

日本名松百選



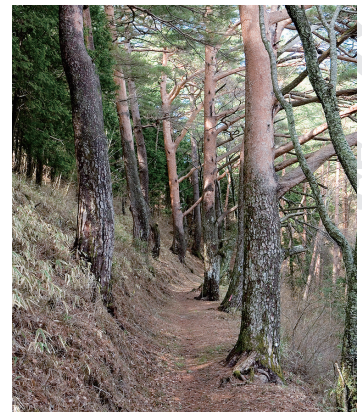
▲大船山にある大船神社

ひとくちメモ

書物によれば、大船神社の前身は勝岳山大船寺という寺院で、765～767年(天平神護年間)に奈良東大寺の初代別当良弁が開いたと伝える古い寺であった。その後、明治の神仏分離令により、山中の六社権現が残って現在の大船神社になったという。

大船神社は、上矢作町大船山の標高1,060^{メートル}に位置し、1856(安政3)年の神社改築の折に彫られた本殿の彫刻は、県の重要文化財に指定されている。この彫刻は、立川和四郎富重の作で、本殿正面が唐獅子、波、牡丹をくわえる唐獅子など。脇障子は、雲の中の鳳、狂獅子などで写実的に表現されている。

大船神社に至る参道には、約300本のアカマツの巨木が約4^{メートル}にわたって立ち並び、1983(昭和58)年、「日本名松百選」に選ばれた。樹齢は推定230年。また大船神社の境内には県指定天然記念物の弁慶杉もある。大船神社は、近年はパワースポットとしても注目を浴びている。



▲約4^{メートル}にわたって巨木が続いている松並木

次号は7月15日号
発行日は7月15日(金)です

広報えな No.154
2011年(平成23年)
7月1日発行

発行 恵那市役所/編集 企画課広報広聴係
岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地1 ☎(0573)26-2111/☎25-6150
<http://www.city.ena.lg.jp/> ☒info@city.ena.lg.jp

『広報えな』7月1日号、1部当たりの印刷経費は約111.1円(税込み)です。



◀市安心安全メール配信システム
(登録用QRコード)

市WEB版文字放送システム
(閲覧用QRコード)▶

口問い合わせ 防災情報課(内線317)



『広報えな』は環境に優しい再生紙を使用しています。



この印刷物は石油系インキではなく、地球に優しい植物油を使用したインキで印刷されています。